



ヒューマンコミュニケーショングループ ニュースレター
 2011年度 No. 2
<http://www.ieice.org/hcg/jpn/>



- Contents —
- ◆ FIT2011 開催報告
 - ◆ ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)シンポジウム2011 開催報告
 - ◆ 人間とICT倫理研究会 (EHI) 研究会 活動報告

FIT2011 開催報告

2011年度ヒューマンコミュニケーショングループ編集幹事
 湯浅将英 (東京電機大学)

第10回情報科学技術フォーラムFIT2011が平成23年9月7日から9日まで、函館大学と函館短期大学で開催された。FIT (Forum on Information Technology) は、情報処理学会 (IPSJ) と電子情報通信学会情報・システムソサイエティ (ISS) 及びヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) との合同で開催されるフォーラムで、活気

ある議論と企画、他分野研究者との交流などの実現を目標としている。今年で創設10周年を迎えるFIT2011は、参加者約1600名、講演論文集掲載数約800件、イベント企画数14件となり、多くの発表者、参加者が集まる盛大な会となった。多数の発表があるため、限られた講演セッション、イベント企画にしか参加できなかったが、講演会場は沢山の参加者で埋め尽くされて活発な議論がなされていたと感じた。FIT創設10周年特別講演は、粘菌を研究されている公立はこだて未来大学複雑系知能学会教授の中垣俊之氏による「粘菌の行動知 ~原始生命システムの自律分散情報処理~」であった。中垣氏は粘菌がネットワークを作る様子から、効率的な輸送網を作るための数学的な研究を進めており、2008年には「人びとを笑わせ、考えさせる研究」として独創的な研究に贈られるイグ・ノーベル賞を受賞している。船井業績

賞受賞記念講演は、二足方向ロボットのASIMOの開発者である本田技術研究所基礎技術研究センター主席研究員の広瀬真人氏による講演「人との共存を目指すヒューマノイドロボットの開発 ~優しく頼もしいパートナーを目指して~」であった。FIT創設10周年に相応しい著名な方々による貴重な講演であった。会期中のイベント企画について、すべてを挙げることはできないが、近年のデジタルデータの増加に伴う情報利用、情報爆発やクラウド化に関して議論する企画や、今後の技術発展が極めて重要になるセキュリティやサイバーテロを扱う企画があり、最新の情報配信を目指すFITの目標に即した企画であった。また、異なる知識・文化を持つ専門家および住民の間で円滑な異文化コラボレーションを実現することを目指して、医療現場、医療情報処理技術者などの研究者等が議論する「地域医療と異文化コミュニケーション」の企画や、農業・漁業事業者のIT化の取り組みとIT側から農業・漁業への参入の両面から議論する「サーバーワールドとリアルワールドの接点、~農業・漁業とサイバーワールド~」も企画された。これらは異なる分野の専門家や現場従事者、技術者が議論をすることを目標としており、FITの目標である「他分野研究者との交流」を目指した素晴らしい企画であると考えられる。10周年を迎えるFITの目標は達成されつつあり、今後も様々なセッションが企画されることに期待したい。次回は、2012年9月4日(火)から6日(木)法政大学小金井キャンパスで開催される。奮ってご発表、ご参加いただきたい。

ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)シンポジウム2011 開催報告

2011年度ヒューマンコミュニケーショングループ編集幹事
 湯浅将英 (東京電機大学)

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) によるHCGシンポジウム2011は2011年12月7日から9日まで、香川県高松市サンポートホール高松で開催された。当シンポジウムはHCG傘下の研究会が集まり、全発表申込を統一枠で取り扱い、関連研究を集めてセッションを組むことによる研究者間の交流、研究の発展を目標としている。今回は、参加者127名、口頭発表50件 (3つのパラレルセッションで発表)、ポスター形式のインタラクティブ発表(一部デモ)14件、さらに企画

セッションが催された。シンポジウム1日目は、招待講演と企画セッション、口頭発表セッションであった。招待講演は「コミュニティ・メディアとその応用展開」と題し、香川大学の垂水浩幸教授によるコミュニティ・メディアとその応用に関する研究活動についての講演であった。企画セッションとして、VNV研究会 (ヴァーバル・ノンヴァーバル研究会) による「多人数・マルチモーダルインタラクションのビデオ分析-開発目的と分析手法のマッチング-」があり、共食コミュニケーションと遠隔コミュニケーションのビデオをデータ分析し、参加者、討論者の多様な視点から工学的分析と人文社会学的分析の対応が議論された。また、この日はインタラクティブセッション (ポスターおよびデモ

ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice
(社) 電子情報通信学会 サービス事業部
TEL: 03-3433-6691 FAX: 03-3433-6659